

経営改善計画進捗状況チェックシート

対象年度 令和4年度

会社名 株式会社鳥海高原ユースパーク

1. 「3. 財務諸表」に関する達成状況

(単位=千円)

項目	改善計画	実績	達成状況	備考
純資産	▲ 500	▲ 2,831	×	・当期損益は計画より赤字が多く、債務超過となっており改善計画は未達成。 ・移動販売車による販路拡大を目指していたが、車両導入を断念した。 ・長期借入に転換を図る計画だった市短期借入金については実現出来ず、さらに民間より短期借入を行っている。
うち剰余金	▲ 62,376	▲ 62,831		
当期損益	▲ 656	▲ 1,111		
指定管理料	7,321	7,322		
市補助金	-	1,976		・宿泊施設利用促進事業助成金(コロナ対策)624千円 ・エネルギー価格高騰対策事業費補助金1,352千円
借入金	27,000	27,000		・市短期借入金27,000千円 ・民間短期借入金3,000千円

※評価について ○=達成 ×=未達成、 ※指定管理料=税抜 ※剰余金…これまでの当期損益の累計額

※純資産がマイナス…資産よりも債務が多いということであり債務超過 ※当期損益がマイナス…単年度決算において赤字

2. 「(ア) 経営の現状(問題点)と改善計画」に関する達成状況

項目	現状(問題点)	改善計画	自己評価	評価の理由	市評価	評価の理由
事業効果の薄れたもの、不採算部門の整理統合	観光関連の不採算部門から撤退し、乳製品製造販売を中心とした経営形態にシフトしたものの、依然として経営改善が図られていない。	事業効果の薄れた部門は整理済であるため、現状の部門で収益確保に努める。	○	新規取引先の開拓など、乳製品製造部門を主体に収益確保に努めてきた。	△	乳製品販売について、新規顧客開拓など収益確保に努めたが、十分な収益確保には繋がっていない。
指定管理料に頼ることのない自立経営	消費税等の特殊要因を除き、指定管理料は平成19年から据置きとなっているが、人件費(最低賃金引上)等経費の上昇があるため、実質的にはマイ	市からの借入金を返済することに全力を注ぎながら、将来的には自立経営を実現したい。	△	1,111千円も単年度赤字となり、市への借入金の返済はできなかった。	×	・販路拡大のための戦略が見られないため、営業収益が上がらず、借入金返済も進まないことは憂慮すべきことである。
内部評価等事務事業の見直し	人員配置を最小にしており、従業員は兼職兼務での就労状況にある。	経費削減の一環として増員は考えていない。従業員の能力向上を図る。	○	社員1名が6月で退職するため、現在社員1名の増員を行った。	○	ベテラン社員が、若手社員へ業務レクチャーを実施しており、若手社員に一定の業務能力向上が見られる。
組織形態の見直し、従業員の適正配置	人員不足の個所にはパートの活用で対応している。	各業務に必要な人員数やスキルを把握し、従業員の能力にあった効率的な人員配置を行う。	○	会社全体もそうだが、日々の製品をつくる製造技術者の高齢化に伴い、若手技術者の採用の検討が必要だが、今年度は定年退職者の再雇用を図った。	△	・ベテラン社員への依存は見られるが、若手社員へ業務レクチャーを実施しており、若手社員に一定の業務能力向上が見られる。 ・販売戦略が無いため、増益するための組織形態見直しなどができていない。

職務権限、責任の明確化	毎週1回の社員会議を開催し、責任の明確化を図っている。	個々の役割を意識し、責任をもって業務を遂行する。	○	各自の職務分担、役割を明確にして、積極的に業務に取り組む体制を構築した。	△	社員各自の業務には取り組んでいるが、一部社員への依存が高いことや、会社上層部との意思疎通が乏しいところが見受けられる。
人事・給与制度の見直し	年1回の定期昇給を行っているが一般的に給与が低い。	成果主義の導入を図りながら待遇改善を図りたい。	△	収支の改善が図られず、従業員の待遇改善はできなかった。	△	厳しい経営状況の中で給与改善は図られなかったが、その状況下で行える待遇は図られている。
職員研修の実施	保健所等、食品衛生講習会への参加。	講習会への積極的な参加。	○	保健所の衛生講習会には積極的に参加してきた。	○	会社側見解のとおり、積極的な参加が見られた。
移動販売車（ミルジー号）での収益確保	市より貸与の移動販売車を自損事故により破損させ、現在は走行不能な状況となっている。このため令和4年度は移動販売を行うことができない。また、車両の損害賠償についても解決していない。	市の方針に従い車両の損害賠償を行ったうえで、弊社で新たな移動販売車をリースし、今後の収益確保に努める。	△	リースの支払期間が指定管理期間を超えることに対して現実的ではないことから、リースは断念した。しかし、事故車両のコンテナ部分は活用可能であるため、引き続き無償貸与とさせていただき、今後、コンテナ営業で活用する事を検討した。	×	市貸与車両破損し、市に損害を与えたことは遺憾である。コンテナ部分の貸与を受け、今後の活用を検討しているが明確な方針が決まっていなと思われる。
情報公開の推進	会社ホームページ、SNS等の公開。	ホームページ、SNSにより情報発信の強化を行い、ネット販売を推進する。	△	新たなSNSを開設し、花立地域を含めたジャージーの魅力を発信してきた。	×	ホームページ更新など遅延することがあり、十分な花立地域の魅力発信ができていない。

※評価について ◎=100%超、○=81~100% △=61~80% ×=60%以下

3. 「(イ) 点検評価による現状(問題点)と改善計画」に関する達成状況

項目	現状(問題点)	改善計画	自己評価	自己評価の理由	市評価	評価の理由
収益性	原材料、包材、光熱水費等の値上がりによる高騰は収益性を大きく圧迫している。	値上がり部分を考慮して10%~15%を商品価格へ転化していく。	○	乳製品は既に実施済みである。また、令和5年度から簡易宿泊施設(コテージ)の宿泊料金も1棟あたり平均19.3%の値上げを実施してきた。	○	厳しい経営状況の中で、営業収益確保については一定の努力している姿勢が見られた。
健全性	現在は債務超過となっており健全性について大きな問題が生じている。	多額な累積を短期に解消する手段は見受けられず経営改善計画書に示した施策を実行しながら改善に努めていく。	○	経営改善計画書に示した施策を実行しながら、新規顧客の獲得に向けて営業活動を行ってきた。	△	債務超過改善に向けた新規顧客獲得に努めるなど営業努力はしているが、短期貸付金をうけるなど健全性は改善されなかった。
成長性	HACCP認証工場として安心安全な製品作りが保証され、また新商品の開発など新規取引先の開発が期待できる。	地域特産品のジャージー乳製品のこだわりをもち、他社製品との差別化を図りながら広くPRしていきジャージーブランドを確立していく。	○	依頼のある地域の産品を活用して、新商品開発を行い、商品化にすることができた。	△	地域の農産品を活用した商品開発に取り組むなど、新規に販路を開拓についての努力はしているが、更なるジャージー乳製品開発を展開し、ジャージー乳製品のPRが必要である。
効率性	生鮮商品のため、消費期限・賞味期限が短い。	コスト単価が見合う取引先の選定。	○	エネルギー、原材料価格の上昇などの影響を考慮しながら営業活動を行い、新規取引先を獲得することができた。	△	光熱水費や物価高騰の影響がある中で、効率性の向上について努力はしているが、ミルジー号販売ができなかったことで、積極的な営業活動が出来なかった。

※評価について ◎=100%超、○=81~100% △=61~80% ×=60%以下